今年も実施「福島の旬を味わおう！贈ろう」キャンペーン

昨年も好評だった企画が、今年も登場！
11年夏には、「福島応援隊・福島の桃を贈ろう！」キャンペーンを展開し、全国38都道府県の企業・団体・個人に1,257ケースを販売。11月には第2弾として「同・福島のりんごを贈ろう！」に取り組みました。

福島県内のJA・漁協・森林組合・生協で組織する「地産地消ふくしまネット」では、2011年度から「福島応援隊」の取り組みを行なっています。これは福島県産の果物を食べ、贈ることで生産者を応援していくものです。

7月9日、「福島応援隊2012・福島の旬を味わおう！贈ろう」キャンペーンの一環で、「地産地消ふくしまネット」のメンバーが上京し、日本生協連への訪問もありました。

このキャンペーンでは、7月31日まで、桃の注文を受け付けています。「地産地消ふくしまネット」で検索。
URL：http://www.fukushima.coop/fukunet/

「学校図書館げんきプロジェクト」へ募金贈呈

日本生協連では、「学校図書館げんきプロジェクト」（活字文化推進会議、全国学校図書館協議会、文字・活字文化推進機構）を支援するため、「つながろうCO・OPアクションくらし応援募金」を全国の生協に呼び掛けてきました。7月14日には、岩手県盛岡市で「学校図書館げんきファーラム@岩手」が開催され、日本生協連・ちばコープ理事の小倉寿子さんから、大槌町立大槌北小学校教諭の菊地富士子さんに目録が手渡されました。被災地の図書館復興のために使われます。

募金は、2013年2月末まで継続して呼び掛ける予定です。

小倉理事（写真左）が、募金の目録を贈呈。
写真：読売新聞社提供

「伝えたい被災地」

このコーナーでは、ライター荒川和巳さんが被災地に入り、見たもの、感じたものを、お伝えしていきます。

生協さんの取材で、継続的に被災地に行っている。

暑いのか寒いのか分からない微妙な天気が続いていたある日、ブログで「明日の被災地取材に何を着ていこうか」と書いて、友人の返事に目を疑った。

「防護服を着るしかないでしょう。お気を付けて」

絶句。すぐに謝罪と訂正を求めることも考えたが、やめた。キレたところで問題は解決しないからだ。書き込んだ人は悪気などなく、私の被ばくを本気で心配している。

被災地のボランティアセンターにて。
※写真と本文は関係ありません。

インターネットも活字も電波も常に情報を発信しているのに、なぜこんなことになるのだろう。被災者の皆さんの気持ちが置き去りにされている。

これからどうするか。すぐに答えが出てこないが、自分ができることを模索していくしかない。根気よく取材を続けて行くこと、今はこれしかないのだ。これからも被災地の皆さんの声を聞いて、つながっていこう。そう思った。